



保健だより



松商学園高等学校
2024年7月特別号
保健室

～女子に考えて欲しい事～

子宮頸がんって聞いたことありますか？

日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんになり、そのうち毎年3,000人弱の女性が亡くなっています。とくに若い年齢層で増加傾向にあるがんです。

子宮頸がんは予防できるがんです。予防のために今できる2つのこと！

- ① 子宮頸がん(HPV)ワクチン
- ② 子宮頸がん検診

高校1年～3年生女子 子宮頸がん(HPV)ワクチン
2025年3月まで無料で接種できます

無料接種期間を過ぎて
接種する場合3回の接種で
約10万円の
費用がかかります

ご自宅に通知は
届いていますか？



接種は合計3回。完了するまでに
約6か月間かかるため、
接種を考えている人は早めに
予約をしてください

ヒトパピローマウイルス (HPV)



子宮頸がんワクチンは、約10年前から国の定期接種になりましたが、接種後の失神など様々な症状が話題となり、「ワクチンは危ない」という噂が広がり、ワクチンを接種しない人が増えました。しかし、因果関係はなかったという専門家チームによる検証結果が出ています。それを踏まえてワクチンの効果とリスクを理解したうえで接種をするかしないかを決めていただきたいと思います。心配な場合は地区の保健センターやかかりつけ内科医、婦人科医などにご相談ください。

2025年3月までは高校生女子1年～3年生については無料接種できるチャンスです。おうちの方とよく相談し、接種を希望する場合には早めに予約をしてください。

～HPVについて男子にも知ってほしい事～

HPV(ヒトパピローマウイルス)が関係しているがんは子宮頸がん以外にも中咽頭がん肛門がんなどが報告されています。具体的に中咽頭がんの50%、肛門がんに至っては93%がHPV感染によるものとされています。

また、HPVは、ほとんどが性交渉を通じて感染するとされています。このため、男性から女性に感染し、その結果、女性が子宮頸がんになるケースもあるのです。したがって女性だけの問題ではなく、男性にも関係のあるウイルスということをお覚えておいてください。

